

白馬だより

2016年6月 泉州労山 鈴木 均（白馬村在住）

長い間雪に覆われていた冬が過ぎ、5月の新緑もあつという間で、家の周りはすっかり森の様子になった。この冬は雪が少なく、生活するには楽だったが、スキー場や宿など雪にかかわることを生業にしている村民はたいへんだった。昨年は熊の出没もあまり聞かなかった。今年は秋田県などで亡くなっているが、長野県では塩尻市のスーパー近くに現れた熊がすぐに仕留められた。白馬村では、まだ聞か

いが偶数年には出没が多いというから要注意だ。

白馬村に住んで6年目に入った。山のことを中心に気軽に書いてみたいと思う。

白馬三山は、白馬駅(697m)から直線距離で10^{キロ}あまり。小日向山(おびなた山)という前山があるが、3000m近い連山が村里からすべて見える。南へ下れば、五竜や爺・鹿島槍など、いわゆる後立山の山脈(やまなみ)が手に取るように見える。こんな風景は日本でもそう多くはない。槍や穂高は、そんなわけにいかない。上高地からでも穂高連峰は小さくしか見えない。私は、残雪期(3~5月頃)の白馬連峰と大町市からの爺・鹿島槍がもっとも気に入っている。

6月5日には、針ノ木雪渓から針ノ木岳をピストンしたが、近年、体力の衰えを少しずつ感じていて、今秋予定しているややヘビーな山行に参加ができるか、自分の体力検定(?)で白馬岳に6月11日、単独日帰り往復してきた。猿倉(1230m)から頂上までの標高差は1700mである。白馬岳(2932m)には若いときから春夏秋、何度も登っているが、すべてが縦走で、これまで大雪渓を登ったり下ったりがあっても、1日でピストンしたことはなかった。

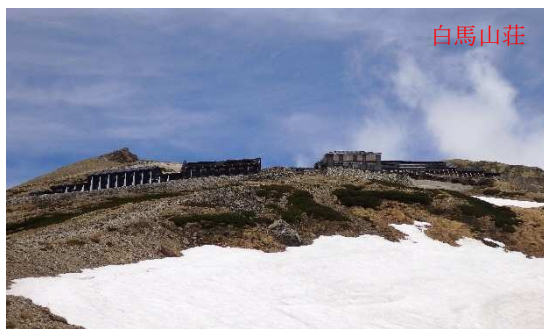
1時間の登りで高度約300m、多少の休憩を入れて登り6時間、山頂でゆっくりして往復11時間も見ておけばいいだろうと計算した。猿倉山荘前を5:40スタート。白馬尻を越えた雪渓末端に7:05。そこからノーアイゼンで行くが、途中からの急登はやはりきつい。土曜日で天気もいいが、登山者は10人もいない。村営小屋にやっと11:05着。白馬尻小屋は目下建設中(毎年夏前に建てて秋の終わりに解体)で、村営頂上小屋は夏に向けて準備に忙しそうだった。(白馬山荘は営業)

山頂までは傾斜はそれほどあるわけではないのに、意外と時間を食って頂上11:59着。単独ということで何回かは休んだが、自分のペースで登って長い休憩は取らず、おにぎりを一つ食べ、水を飲んだくらいだ。休憩を含め6時間20分、昼頃に着ければいいかと思っていたのが計算通りでまあまあだった。山頂のすぐそばでライチョウの雄が岩の上から縄張りを監視していた。ほとんど同じ体勢で周囲を見続けていて動かない。かなり長い間撮影していたが、雌を見つけられなかった。

頂上登12:30。しかし、下りは失敗だった。使えると思ったソリは上部の雪渓は急斜面で危なすぎた(自分が下手だけかもしれないが、当然フォールラインに滑って制動を効かせられない)。下りを甘く見て、持ってきた6本爪アイゼンは、急斜面でははかばかしくなくて逆に時間を食ってしまった。ほとんど休憩しなかったが、猿倉16:30着。撮影や休憩を含め11時間近くでなんとか無事下山できた。一応のクリアーといえようか。



村営小屋と白馬嶺(右)・杓子岳(左)



白馬山荘



白馬山頂近くで縄張りを見張るライチョウ

